

**(会社)「物価高騰は認識あるが⇒4年連続の赤字は避けたい  
現時点の考え方「ベアは実施したい。昨年以上の額を提示できるよう議論している」  
「物価高騰を上回る水準の賃上げを」社員の期待に、経営陣は応えるべきだ!**

3月7日、「2024年度賃金引き上げに関する申入れ(国労闘申8号)」にも基づく、第3回交渉が行われ、現時点での貨物会社の考え方が示された。

会社は、「各施策について取り組みを強めてきたが物価上昇に伴う買い控えや夏の大雨、台風が輸送量に影響を及ぼした。半導体不足の解消により自動車部品が回復傾向、鉄道シフトによる食料工業品が需要回復の兆しがあるものの、化学薬品の生産減や紙・パルプなどの需要減などにより対前年で減送などの結果最新の見込み値で△71億円となり、会社発足以来6番目の低い数値である。貨物会社の賃上げが物価上昇に追い付いていない指摘や岸田首相や経団連十倉会長のコメントなども認識しているが、4年連続の赤字は回避しなければならず、まずは着実に経営の回復に全力をつくす」として「ベアについては実施したい。昨年以上の額が提示できるよう引き続き議論していく」との考え方を示した。

組合は、「この間もベア実施は行われているが社員の生活改善に程遠い状況である。国労要求に応える耐力は十分ある」ことを主張し、交渉を終えた。社員の生活を最優先に経営陣は今こそ決断すべきだ!



## 貨物社員1,056筆の署名を提出する! 貨物社員の切実な声に耳を傾けるべきである!

国労は、2月13日にJR各社に要求提出をし、24春闘してスタートした。その後、団体交渉を支えるべく、3月5日の3.5国労中央総決起集会をはじめ、各エリア・地方などそれぞれの地域や職場から24春闘の取り組みが積み上げられている。

要請FAX・門前ビラ、現場長要請・職場集会などを通じて、24春闘の目標である「定期昇給の完全実施!」「ベア17,000円満額獲得!」に向け取り組み、その最たるものが、「労働条件改善署名」である。

この署名は組合員だけにとどまらず、全組合員の努力により、他労組組合員や組合未加入者の社員を対象に、3月7日段階で**1,056筆**の署名が集約された。

貨物社員の実態は、18年連続ベアゼロの悪しき時代から、今なお続くJR最低とも言える期末手当の連続であり、昨春闘では、平均1,000円のベアが実施されたものの、この5年間のベア実績は2,000円にも満たない状況であり、物価高騰にあえぐ社員の生活実態は改善に至っていない。

貨物会社経営陣が、今、行うべきことは、物価高騰に疲弊している社員の生活実態を最優先に考え、生活の維持・向上のために、国労24春闘要求であるベア17,000円満額回答の判断を行う責務がある!

